

## 武蔵野市教育委員会「セカンドスクール」(東京都武蔵野市)

自治体名	東京都武蔵野市	担当部署	武蔵野市教育委員会 教育部 指導課
活動名	セカンドスクール	実施対象	全公立小学5年生(プレセカンドスクール4年生)、 中学1年生
実施期間	小学5年生: 6泊7日~7泊8日、 中学1年生: 4泊5日	宿泊施設	集団宿泊施設、民宿(分散泊)等
特色	セカンドスクールにおける体験活動の3つの要素「自然」「長期宿泊」「協働・交流」を踏まえること		
	“体験活動の質”を重視して、学校と教育委員会の両輪でセカンドスクールのねらいの達成を目指すこと		
	既成の体験プログラムを安易に利用しないこと、体験があっても学びがなければ意味がない、ねらいがあつてねらいを達成させる手段であること		
きっかけ	武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体になって進める学校づくり」(報告書)の提言により、武蔵野市セカンドスクール構想委員会が発足した。		
経緯	平成3年度に武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会が設置された。		
	平成6年度にセカンドスクール推進委員会が設置された。		
	平成7年度より、学期中に小学校全校(現在全12校)で実施されるようになった。		
	小学校4年生を対象にプレセカンドスクールも実施している。		
	セカンドスクールの効果が報告書等により周知され、予算化が20年間続いている。		

### 武蔵野市教育委員会における学校を支援する仕組み

1. 人的な支援	教員の他に、非常勤として以下に示した指導員や講師等を活用する。		
	①現地講師	役割	プログラム(田植えや現地ガイド)の実行
		人材確保	学校から現地に直接手配
		費用負担	謝金を武蔵野市より支出
		研修	送り側としては行ってはいない(受入側で研修を行っている)。
	②生活指導員	役割	生活指導
		配置	基本生徒15名に対して1名(分宿の場合:宿毎に1名。特別支援学級は別途1名)
		人材確保	学習指導員の登録制度の活用(大学生などの教員志望者等)
		費用負担	謝金、宿泊代、食事代を武蔵野市より支出
	③付き添いの看護師	研修	学校より注意事項を徹底する(SNS等を使用)。
		配置	全体で1名
		人材確保	看護師派遣業社に依頼。配置は1名、養護教諭を配置する場合もある。
	⑤民宿民泊	費用負担	武蔵野市より支出
		役割	(※民宿・民泊に滞在する場合に限る) 民宿・民泊の人々と生徒との家族的な交流(お父さんやお母さんとしての役割)
	⑥費用負担	費用負担	宿泊代や体験料に含む(1泊当たり食事代2,000円が保護者負担、残額は武蔵野市より支出)
役割			
2. 物的支援	①緊急対応用のレンタカーの配車:基本1~2台、本部から分宿先への移動		
	②携帯電話の貸し出し等		
3. 費用面での支援	①武蔵野教育委員会における本活動に係る予算額:1億3千万円		
	②往復の交通費:全額武蔵野市負担		
	③現地での宿泊代や活動費:全額武蔵野市負担、但し食事代は保護者負担		
	④医療費等:武蔵野市負担(※スポーツ保険に加入。生徒の健康保険を使用した上で3割負担部分を補填)		
4. 本活動を継続していくための教育委員会による対策			
本活動が学び無しの体験活動にならないように、学習活動としての教育意義を学校によく考えてもらい、実施計画書の見直しや教育委員会とのヒアリングを実施している。			